

巻頭言

AIに頼ることなく

会長 能村 研三



真木

第 208 号

〒260-0852
千葉県中央区青葉町
1274-14
加藤峰子方
千葉県俳句作家協会
事務局
TEL 043-225-7115

〒276-0042
八千代市ゆりのき台3-4-1101
前北かおる方
「真木」編集部
TEL 090-4363-3501

目 次

Table with 2 columns: Content and Page Number. Includes items like 'AIに頼ることなく', '第九回千葉県俳句大賞決まる', '大賞 句集『素描』清水伶', etc.

新年を迎え、お屠蘇気分も覚めやらぬうちに起きた能登半島地震、犠牲になられた方々に心よりお悔やみを申し上げるとともに、被災地域の皆様の安全確保と一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。
さて、今年辰年。龍の年として知られ、力強いシンボルとして幸運を呼ぶとされています。龍が水や雲、翼を得るように、持てる力を發揮して飛躍する一年にしていきたくと願っております。
コロナ禍から解放され、私たちの文化活動もほぼコロナ以前のかたちに戻ったことは大変うれしいことです。
ところで最近にわかに話題となつていのが、「生成AI」のことでしょうか。チャットGPTなど生成AIを駆使して、さまざまな文化芸術作品を生み出すことが可能な時代となったことですが、せめて私たちはこうしたAIに頼ることなく私たちの自己表現の場として俳句を作っていきたいと思ひます。
私たちの千葉県俳句作家協会の活動もコロナ禍を越え普段の日常活動が取り戻せたように思いますが、昨年二月には、千葉県青葉の森芸術文化ホー

ルで開催される「みんなで能舞台に触れるweek」の一環として行われた「俳句短冊展 早春賦」が開催されました。短冊展も今回で三年目となりました。九月には千葉県民芸術祭の一環としてさう千葉県地階ギャラリーにおいて、色紙短冊展が開催され、句に合わせた写真も展示され多くの方にご覧いただくことが出来ました。
また、五月二十一日には千葉県俳句作家協会の通常総会が開催され、同時に「千葉県俳句大賞」並びに「千葉県俳句作家協会賞」の贈賞式、新緑交流俳句会も開催することが出来ました。
九月には恒例の吟行会は流山でされましたが、流山は二度目の開催地でもありました。
さらに十月には、第65回千葉県俳句大会が例年開催の千葉県文化会館が改装工事のため、青葉の森ホールで開催され当日は土肥あき子さんの講演をいただきました。本大会への投句者は昨年より倍増して活気ある大会となりました。
今年千葉県俳句作家協会も53年目になります。65回目となる節目の年となります。今年も昨年にも増して充実した一年にしたいと思ひますのでよろしく願ひいたします。

会長 能村研三

# 第9回千葉県俳句大賞決まる

千葉県俳句作家協会では千葉県内に居住する作家が、毎年十二月一日より翌年の十一月末日までに刊行した句集を対象に「千葉県俳句大賞」を設定し表彰を行っている。作品は自薦・他薦を問わず、また当協会に加盟の有無も問わず、選考事務局に送付された全句集が対象である。

本年は八句集の応募があった。各作家による各自の句集より、自選二十句を選者六人に前もって配布、検討を依頼した。

選考会は昨年十二月十六日、理事会の後、午後三時よりホテル「プラザ菜の花」に於いて開催した。能村研三、増成栗人、秋尾敏、北川昭久、石井紀美子、村上喜代子である。

選考委員は各句集の自選二十句をもとに前もって検討、それをもとに当日六人が真剣な討議を交わし、左記のとおり本年度の受賞句集が決定した。なお準賞は該当無しとなった。

大賞の清水伶氏は「遊牧」代表。林昭太郎氏は「沖」同人。選考会においては一冊一冊の句集をさまざまな角度から検討、熱の籠った討議がなされたことを付記する。

## ◎第九回 千葉県俳句大賞

句集『素描』 清水 伶

本阿弥書店 (二〇二三年 刊行)

同 俳句大賞

句集『花曇』 林昭太郎

ふらんす堂 (二〇二三年 刊行)

同 奨励賞

句集『母情』 椎名 鳳人

現代俳句協会 (二〇二三年 刊行)

選考委員は俳人協会・現代俳句協会・伝統俳句協会の三団体で当協会所属の作家たち。それぞれの協会の枠を超えた真剣な討議の場である。さらに広く県内の俳人の功績を顕彰してゆきたく、来期も奮っての皆様に応募を期待している。(村上喜代子)

### 選考委員

能村研三  
 増成栗人  
 秋尾敏  
 北川昭久  
 石井紀美子  
 村上喜代子



俳句大賞選考会

# 大賞



## 句集『素描』

清水 伶 自選二十句

市原市在住。平成三十年「朝」入会、岡本眸主宰に師事。平成九年「朝」退会。「海程」入会、金子兜太主宰に師事。平成十一年同人誌「遊牧」に入会、現在に至る。平成二十三年「海程」退会。第七十三回現代俳句協会賞受賞。句集『指銃』、『星狩』。「遊牧」代表、現代俳句協会会員、千葉県現代俳句協会幹事、千葉県俳句作家協会会員、千葉日報・日報俳壇選者。昭和二十三年岡山県生まれ

ぼうたんの狐雨なら母の景	白鳥の頸の辺りがデカダンス
深爪の男あつまる桃の花	さくらしべふる瞑目も復活も
人麻呂も虫麻呂も居て花の闇	くちびるに微かな水位草蜉蝣
緑夜なり孔雀啼くまではさすらい	夕ひぐらし魂函いくつ開け放ち
オルガンを踏んで白鳥座の汀	濫読のさびしき青鷺と吹かれ
告白も懺悔もありて寒つばき	いもうとの小舟をさがす花の谿
バツハと云いブゾーニといい牡丹に芽	耳たぶを孤舟とおもう春驟雨
鍵盤にフーガのもつれ蝶の昼	蜻蛉生る風ことごとく父の私語
一滴の海のしずくの瑠璃蜥蜴	ヴィーナスの腕 <small>かひな</small> さびしき枇杷熟るる
鶏頭を素描にすれば荒野なり	花文字の聖書ひらけば白夜かな

# 大賞



## 句集『花曇』

林 昭 太 郎 自選二十句

佐倉市在住。平成二十五年、「沖」珊瑚賞受賞。平成二十七年、沖俳句コンクール入選一位。句集『あまねく』。「沖」同人。俳人協会会員。昭和十六年千葉県生まれ。

指置けばくもる鍵盤春の雪	新涼のキリトリ線に鋏の絵
ふらここの子を空へやる手の加減	まだ海に火照りの残る星祭
ハモニカを吸へばラの音蝶生まる	つぶやきをかたちにすれば吾亦紅
マヨネーズばふんと終る春の昼	火の中へ火を滴らせ秋刀魚焼く
囀の真ん中に引くプルトップ	助手席を飛び出て狩の犬となる
包帯の中の脈拍新樹の夜	俎板のあまたの傷を干して冬
俎板をはしる熱湯けふ立夏	湯気立てて湯気のなか行く冬の川
夜の雲となりて峰雲なほ育つ	凧や抜け落ちてゐる煮干の目
塩壺の塩のつめたき大暑かな	二陣来て白鳥の湖うごきだす
夏帽子大きく振れば対岸も	まばたきは瞬の黙禱冬銀河

# 奨励賞



## 句集『母情』

椎名 鳳人 自選二十句

野田市在住。昭和四十八年、「雲」新人賞受賞。平成十四年、雑草賞受賞。「雑草」特別同人、現代俳句協会会員、全国俳誌協会会員、千葉県俳句作家協会会員、野田俳句連盟副会長・幹事長。昭和十八年茨城県生まれ。

母情の荷縄ぶつぶつ切って風光る	馬の目の淋しいときは桜散る
我が死角正面にあり初鏡	失くしたる指の先まであたたかし
風花舞う詩に翼のあるように	人許すように蛭を水に浸す
空蟬の爪の力を抜いてやる	真つ白きハンカチ関西弁の出る
この坂の上に坂あり野分雲	白銀の野に出て鶴の首落とす
地の底も良夜なるべし樹木葬	氷点の水に漲る力かな
白鳥は風の原型遠干潟	月の海へきらきらと母老いてゆく
霧をゆく洗脳されている如く	消えてゆく村がふるさと初燕
山脈に理系文系今朝の秋	均衡して止まる天秤寒の入
死火山で引き抜く葱の莖青し	全景が浄土郷なり蟬時雨

# 第九回 千葉県俳句大賞選評

## 大賞句集『素描』選評

秋尾 敏

## 大賞句集『花曇』選評

能村 研三

## 奨励賞句集『母情』選評

秋尾 敏

清水伶氏の『素描』は、豊かな叙情を現代俳句

の自由な枠組みの中で詩情豊かに展開しており、過去に句集『星狩』による千葉県俳句大賞準賞の受賞はあるが、今回、あらためて千葉県俳句大賞

の受賞となった。選考にあたっては、林昭太郎氏の句集『花曇』と同点の評価となり、一位に推す

声も同数に分かれたため、協議の結果、二人の同時受賞と決まった。句集中の佳句としては〈朧夜の遠き情死にとりまかれ〉〈瞬きのこぼれやすくて

蝶の昼〉〈ほうたるの闇のうしろの赤ん坊〉〈人らみな踵失くしてかいやぐら〉〈いもうとの靴をさがしに虹の裏〉〈くちびるを岬と思う冬の雷〉〈昼寝

覚死海のほとりから戻る〉〈白桃に指溺れたり草田男忌〉〈白鷺の一夜劇ならくれないに〉〈花文字の聖書ひらけば白夜かな〉等が特に印象的であった。

氏は昭和二十三年、岡山県生まれ。「朝」「海程」「遊牧」同人を経て「遊牧」代表。現代俳句協会・千葉県俳句作家協会会員。「千葉日報」紙俳壇選者と

して千葉県俳壇の活性化に貢献している。

清水伶氏の『素描』は、豊かな叙情を現代俳句の自由な枠組みの中で詩情豊かに展開しており、過去に句集『星狩』による千葉県俳句大賞準賞の受賞はあるが、今回、あらためて千葉県俳句大賞の受賞となった。選考にあたっては、林昭太郎氏の句集『花曇』と同点の評価となり、一位に推す声も同数に分かれたため、協議の結果、二人の同時受賞と決まった。句集中の佳句としては〈朧夜の遠き情死にとりまかれ〉〈瞬きのこぼれやすくて蝶の昼〉〈ほうたるの闇のうしろの赤ん坊〉〈人らみな踵失くしてかいやぐら〉〈いもうとの靴をさがしに虹の裏〉〈くちびるを岬と思う冬の雷〉〈昼寝覚死海のほとりから戻る〉〈白桃に指溺れたり草田男忌〉〈白鷺の一夜劇ならくれないに〉〈花文字の聖書ひらけば白夜かな〉等が特に印象的であった。

氏は昭和二十三年、岡山県生まれ。「朝」「海程」「遊牧」同人を経て「遊牧」代表。現代俳句協会・千葉県俳句作家協会会員。「千葉日報」紙俳壇選者として千葉県俳壇の活性化に貢献している。

『花曇』は林昭太郎さんの『あまねく』に続く第二句集。令和四年までの十二年間の作品三一〇句

を収めている。昭和五十一年に三十代で「沖」に入会、「沖」の若手作家として能村登四郎の薫陶

を受けたが、仕事で二十年ほど作句を中断、平成十六年に「沖」に復帰され、現在「沖」蒼茫集同人。

タイトルの「花曇」は、高齢の私にはいささか華やか過ぎると思うと述べているが、〈水飴の気泡う

ごかず花曇〉から句集名をとった。「モノに語らせ、目に見える俳句を」が林さんの作句信条。

虫の音を小さく分けて分譲地パレットに春待つ指を通しけり

悪友の悪友は吾ぬのこづち

山茶花の盛り山茶花散るさかり

など、リフレインを巧みに使った句もあり、常に心の眼を見開いて作られた句集で、季語と素材との絶妙な取り合わせは見事である。

椎名鳳人氏の句集『母情』は、仕事や生活の中で培われた詩情が生き生きとした韻律を生み、生きる力としての俳句が記された句集である。若き日に負った身体的なハンディキャップを俳句によつて克服してきた過程に深い文学的な感動を覚える。それらが高く評価されての受賞となった。句集中の佳句として、〈我が死角正面にあり初鏡

〈失したる指の先まであたたかし〉〈地の底も良夜なるべし樹木葬〉〈真つすぐに尖る鉛筆原爆忌〉〈どんぐりの一つひとつがわらべ歌〉〈裸木に星の集まる誕生日〉〈恐るべき自由の疲れ花曇〉〈賀状来る龍の目玉を白抜きに〉〈一本の枯葦として酒を断つ〉〈花野夕焼吾一坪の墓地得たり〉〈玉葱を剥く

新刊の句いかな〉等が特に印象的であった。氏は昭和十八年、茨城県生まれ。キッコーマン株式会社

社の職場句会で句作を始め、「雲」(佐々木有風主宰)を経て「雑草」(佐藤雀仙人・実籾繁主宰)同人。

現代俳句協会・全国俳誌協会・千葉県俳句作家協会会員。野田俳句連盟副会長・幹事長。雲新人賞、雑草賞受賞。

現代俳句協会・全国俳誌協会・千葉県俳句作家協会会員。野田俳句連盟副会長・幹事長。雲新人賞、雑草賞受賞。

現代俳句協会・全国俳誌協会・千葉県俳句作家協会会員。野田俳句連盟副会長・幹事長。雲新人賞、雑草賞受賞。

現代俳句協会・全国俳誌協会・千葉県俳句作家協会会員。野田俳句連盟副会長・幹事長。雲新人賞、雑草賞受賞。

現代俳句協会・全国俳誌協会・千葉県俳句作家協会会員。野田俳句連盟副会長・幹事長。雲新人賞、雑草賞受賞。

現代俳句協会・全国俳誌協会・千葉県俳句作家協会会員。野田俳句連盟副会長・幹事長。雲新人賞、雑草賞受賞。

現代俳句協会・全国俳誌協会・千葉県俳句作家協会会員。野田俳句連盟副会長・幹事長。雲新人賞、雑草賞受賞。

## 第九回千葉県俳句大賞

## 受賞者のことば

## 大賞

清水 伶

今回、思いがけず第九回千葉県俳句作家協会の大賞を頂きましたこと、大変嬉しく感謝申し上げます。

今回、私の第三句集『素描』は、コロナ禍の中、句会も対面句会が出来ず、すべての句会が通信句会となり、また吟行会は一度も実現できないような異常な時期での作品を集めたものが多くを占めております。そのため私の個人的な教会での奏楽や音楽用語、教会用語を敢えて使っている句も多く、反省もあるのですがそれもわたしの「素描」に違はないと思つて自分的には納得しております。

前句集の『星狩』では平成三十年に第三回千葉県俳句大賞の準賞を頂きました。その折の透明な椅子の盾に「貴殿の句集『星狩』は、斬新な表現により豊かなイメージを生み出した句集で、千葉県俳壇の誇りとなるものです」と、刻まれた言葉をお大切にその歩みを続けて参りました。今回の盾に刻んで頂けるメッセージはどんな言葉なのかを大変楽しみにしております。

この賞に恥じないような作句を、「遊牧」という同人誌の活動を通じて活性化して行きたいと思つております。大変有難うございました。

## 大賞

林昭太郎

この度は千葉県俳句大賞という大きな賞をいただき、誠にありがとうございます。『花曇』は『あまねく』に続く私の第二句集です。第一句集と同じく「モノに語らせ、目に見える俳句を」という私の作句信条に従っています。

この句集は俳人協会の俳人協会賞に応募して一次予選を通過しておりましたので、ある程度のご感想は得られるものと思つておりましたが、大賞を頂けるとは夢にも思いませんでしたので非常に嬉しく存じます。

これで私の作句信条が間違っていないことが証明された、と意を強くしてをります。

ただ一つ心配なのは四十年来の持病である緑内障が末期に差し掛かっていて、肝心な目が見えなくなりつつあることです。ここしばらく吟行にも参加しておりません。困りました。

こうなれば今のうちに見るべきものを見ておくしかありませんが、何を見たら佳いのか？それが判りかねます。困りました。

ただ、過去に見たモノの記憶は沢山ありますので、暫くはそれでしのぎたいと思つております。さて、いかがなりますでしょうか……。兎に角、頑張りたいと思ひます。

この度は本当にありがとうございます。

## 奨励賞

椎名鳳人

この度、拙句集「母情」に対し過分なる奨励賞を賜り深く感謝申し上げます。

ご推薦下さいました各先生方はじめ関係の皆様にご心からお礼申し上げます。

私の俳句入門は、職に就いて間もなく災害に遭遇して右手に重度の機能障害が残ったことが切っ掛けでした。臥せていたとき職場の先輩に俳句への入門を勧められ、昭和四十一年、俳句結社「雲」（佐々木有風創刊）、同四十二年「雑草」（佐藤雀仙人主宰）の会員となり、以降、佐藤雀仙人没（平成九年）後は「雑草」を継承した実糊 繁主宰に師事、現在に至っております。

句集「母情」は、本年四月に傘寿を迎え、同時に金婚であることを機に上梓したもので、半世紀にわたる雑草誌掲載句の中から三百三十一句を選句し登載したものであります。

これからは俳句の本道に少しでも近づくことを念頭に五七五という得体の知れない文学に深入りを試みたいと考えております。

今回の奨励賞は、俳句をもっとも好きになりなさい、そして俳句を沢山書きなさいという叱咤激励の賞であると理解し感激一入であります。ありがとうございます。

## 第9回 千葉県俳句大賞選考対象句集

番号	賞	句集名	著者	刊行年月日	刊行出版社	現住所	所属結社
1	大賞	素描	清水 伶	23.9.7	本阿弥書店	市原市	遊 牧
2		琴柱	吉岡 麻琴	23.5.21	ふらんす堂	千葉市	いには
3	奨励賞	母情	椎名 鳳人	23.4.4	現代俳句協会	野田市	雑 草
4	大賞	花曇	林 昭太郎	23.2.23	ふらんす堂	佐倉市	沖
5		アトサキ 安止左幾	河内 文雄	23.6.30	ふらんす堂	千葉市	銀 化
6		旅人の木	箕輪 カオル	23.11.27	ふらんす堂	我孫子市	鳴
7		発展途上	金子 未完	23.10	ひとり出版社	船橋市	
8		ひらひらと	歌代 美遥	23.10.25	文學の森	富里市	玉 藻

### 俳句短冊展『冬・新年を詠う』

千葉県俳句作家協会では、令和五年一月六日(二十一日)にかけて青葉の森芸術文化ホールで俳句短冊展を実施した。これは、同ホールにて開催された「みんなが能舞台に触れる weedy」に合わせ行われた企画で、協会の参加も恒例となっている。俳句の短冊は風景写真とともに展示され、期間中多くの来場者が足を留めて鑑賞した。以下に、展示された作品を掲載する。

初明り己が翼に力溜め  
筆擱けば寒折の音遠去かる  
月光が薨を滑る千葉笑  
記紀の世も筑波はかくや冬の晴  
肉体が宿る流木寒夕焼け  
風を待つ鳥あり十二月八日  
大地から喃語のやうに福寿草  
ふるさとの背山は無口露の臺  
若桜いつかももいるクローバー  
とんがつてゐて焚火には近寄らず  
畦の榛ふくら雀の木となりぬ  
白鳥の空一列に撓ひけり  
嬰の毛布お日様に見てもらひけり  
酒蔵の裏庭広し羽子日和  
かにかくに時は流れて石路の花  
冬蝶にやさしき猶予ありにけり  
地のかたさ空の青さや冬桜

能村 研三  
増成 栗人  
秋尾 敏  
北川 昭久  
石井紀美子  
高橋 健文  
加藤 峰子  
三浦 侃  
前北かおる  
飯田 晴  
伊藤 素広  
葛西 茂美  
鎌田 光恵  
清水佑実子  
重城 弥生  
須田真里子  
高橋 宗史



冬菜畑貨車の汽笛の鳴り渡る  
寒林や日の大きくて入るところ  
しづけさを調律したる冬の月  
景清の面に宿る冬の精  
しばらくは風花に空あづけをり  
眉上げて下げて春愁とはこんな  
寒々と文机のあり直哉の居  
熊鍋やとうとうと夜が降りてくる  
冬雲の芯の白光旅始まる  
はきはきと良き声の来てお年玉  
句の縁紡ぐ寿福寺石路の花

中村 世都  
染谷 卓  
稗田 寿明  
平岡 育也  
藤井 稜雨  
村上喜代子  
山岸 明子  
祐 森司  
石橋みちこ  
すずき巴里  
藤田 考成



会場風景



# 千葉県俳壇二ニュース

## 俳人協会千葉県支部

### 第二十六回 秋季吟行会

令和五年十月二十二日(水)、俳人協会千葉県支部・第二十六回秋季吟行会が、十一万石の城下町で蘭学発祥の地・佐倉で開催された。内海良太幹事(万象主宰)が「洋画家・浅井忠と正岡子規」を講演。佐倉出身の浅井忠の作品を収蔵する「佐倉市立美術館」四階で一〇四名の参加者を得て賑わった。

- ① 歩くほど遠くが見えて柿の秋 伊藤 素広
- ② 城山は風の遊び場小鳥来る 村田美穂子
- ③ 秋風や迷へば地図を逆さまに 中村 かよ
- ④ 土塁いま逍遙の道柿日和 渡辺美紀子
- ⑤ 無造作は円熟に似て萩すすき 滝口美智子
- ⑥ 棉吹くや三間の暮しの武家屋敷 中村 かよ
- ⑦ 秋惜しむもののふの径辿りては 岡井マスマ
- ⑧ 城址てふ日溜り十月桜咲く 原 瞳子
- ⑨ 城跡の起伏に沿へば秋のこゑ 中村 世都
- ⑩ 底までは見せず水澄む姥ヶ池 大野 崇文

(大野崇文報)

## 第七十六回 館山市文化祭俳句大会

館山市俳句連盟主催の第七十六回館山市文化祭俳句大会が、十一月一日実施されました。当期雜

詠の事前投句九十八名、二九四句の応募作品を冊子にして出版し、選者七人の選により順位を決め表彰しました。当日は四十名の出席者によつて句会が行われました。

### 兼題上位者(選者辞退)

館山市長賞

めいつばい生きて仮の世遠花火

榎引 明江

館山市教育長

ファッション誌飛び出て大き夏帽子

川崎 一美

房日新聞社賞

会ひたいと一言書きて星祭

川崎 一美

④ 大夕焼伊八の波へ朱を差しぬ

山根 徳一

⑤ 余生など人の世のもの蝉しぐれ

古居 芳恵

⑥ 反戦の旗持つ人に汗にじむ

春藤かづ子

⑦ 木に梯子立て掛けてある良夜かな

鈴木 滋子

⑧ 来し道に悔いは無かりし返り花

市原 勝靖

⑨ ポケットに半端な一句鱗雲

佐藤 敏子

⑩ ふるさとを恥じた過去あり青蜜柑

安保 成美

### 選者辞退句

② 貝塚は時の刻印風白し

石崎 和夫

③ 紅葉はら紅葉はらひら無言館

東 國人

④ さみだれは男の追慕真砂明忌

粕谷 繪水

### 【席題 入賞者】

① 鳶紅葉空家一つを飲み込みめり

佐藤 敏子

② 口ほどに動かぬ手足暮の秋

田中 信子

③ 倒れても白菊なほも気丈なる

佐久間由子

④ 菊咲いて吾にわずかな正義感

安保 成美

⑤ 吊り橋の声揺れてをり紅葉山

平嶋 共代

- ⑥ 菊の香を連れて浄土に旅立ちぬ 湯川 敬之
- ⑦ 菊残し鮪漁師の帰らざる 笹生 君雄
- ⑧ 悔多き一世戻らぬ暮の秋 伊藤 茜音
- ⑨ 菊日和更地となりし本籍地 田沼美智子
- ⑩ 幸せをひよいと感じる菊日和 榎引 明江

③ 晩学は余生の褒美菊薫る

滝口 照影

⑤ 千年の法灯ほのと暮の秋

石崎 和夫

(報告 石崎和夫)

## 第七十回 柏市文化祭俳句大会

柏市俳句連盟・柏市文化祭実行委員会主催の文化祭俳句大会が十一月四日柏市中央公民館において開催された。参加者は一〇四名であった。上位入賞者(三十位までのうち十位まで)とその代表句は次の通り。

- ◆ 入賞者代表句(一位から三位までは連盟会長賞)
- ① 愛読書縛れば資源文化の日 原田 香伯
- ② 捨てがたき夢を灯すや帰り花 石山 幸月
- ③ いくばくの余力ありけり捨案山子 保坂 末子
- ④ 腕組みも次への一手松手入 藤本 明子
- ⑤ 数独の埋まらぬ楯目虫の夜 金井 照子
- ⑥ 少し開くホスピスの窓小鳥来る 浦野 五郎
- ⑦ 身に入むや妻壊れるなこはれるな 山村 自游
- ⑧ 縄文の大地に還る木の実かな 藤岡 貞夫
- ⑨ 罌雲やりたきこととできること 茶谷 静子
- ⑩ 秋晴や古地図片手に城下町 西嶋久美子

(柏市俳句連盟 茶谷静子 報)

「響焰」創刊六十五周年記念号

米田規子主宰の「響焰」が創刊六十五周年を迎え、通巻六六六号にあたる十二月号が記念号として発行された。慶祝。主宰による「65周年を迎えて」、記念祝賀会報告記、会員各位による「65周年、この一句」のほか、記念座談会「AI時代と俳句の行方―なぜ俳句を作るのか」を収録。

● 結社賞 ●

令和六年沖・結社賞

第五十二回沖賞 頓所友枝

ブルーブラックインク秋へ書く手紙 友枝

第五十二回沖賞 林昭太郎

指置けばくもる鍵盤春の雪 昭太郎

第五十二回沖賞 能美茅柴

由布岳を真つ正面に初湯かな 茅柴

沖特別賞 宮坂秋湖

色変へぬ松のごとくに吾もまた 秋湖

第四十六回珊瑚賞 埴誠一郎

家系図のはじめは分家蝌蚪の紐 誠一郎

第五十二回新人奨励賞 坂井博

登仙の心地こそすれ猿酒 博

第五十二回新人奨励賞 吉村さよ子

千古より打ち返す波鳥渡る さよ子

(「沖」一月号より)

令和五年度野火三賞

野火賞 長谷部かず代

胸元の真珠一粒風薫る かず代

野火賞 旗本春美

足りぬ色夕日に貫ひ冬紅葉 春美

新人賞 武田ラーラ

小康を保ちて叔母や蜜柑剥く ラーラ

新人賞 福嶋千鶴子

牛小屋の飼料のタンク秋高し 千鶴子

功労賞 大田千代子

安達太良の夕焼け空や稲雀 千代子

青霧賞 柏木はる子

拍動の一瞬ふはり冬の朝 はる子

(「野火」一月号より)

第三回青霞賞

青霞賞 「寒紅」長谷川陽子

寒紅をさすや母似の顔となる 陽子

(「初蝶」一月号より)

会員著書紹介

● 句集『ひらひらと』歌代美遥著

著者は、「童子」を経て、「ホトトギス」「篠」「玉藻」に入会し同人。二〇二二年には、第一句集『月の梯子』を上梓していて、本書が第二句集となる。行動力旺盛な作者で、旅吟が多く収録されている。伝統俳句に軸足を置きながら、幅広い視野を持って生み出した意欲作が魅力的。 駅弁の箸折れやすく花菜漬 夏初め神話の国の潮けぶり 琉金の鱭いちにちをひらひらと

仮面つけ仮面売りたる秋祭

(令和五年十月発行・文學の森)

新入会員一句

寒月に響く遠笛何処より

動かねば埋もれさうなる木の葉雨

冬瓜に僧の静けさありにけり

梅東風や母は傘寿に戸惑へり

大空に燃え上がりたる櫨紅葉

今日の日を大事に生きて寒椿

宮内 秀子

岡井 マスミ

岡澤 田鶴

橋内 訓子

久保木 徳

宇山 美代

基金御礼 (令和五年一〇月二五日以降)

野口 養子 増成 栗人 北川 昭久

藤井 稜雨 秋尾 敏

(令和六年一月三〇日現在：二七口、五万四千元)

千葉県俳句作家協会 運営基金のお願い

千葉県俳句作家協会のさらなる発展のため、運営基金を募集致します。皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

◇ 一口 二千元

◇ 送付先 千葉県俳句作家協会基金口

郵便振替 〇〇一四〇一〇一七九二〇八三

基金にご協力頂いた方のご芳名を会報「真木」に記し領収に替えさせていただきます。

受贈誌より

あびこ(三六九号)

誰か来る野の夕焼けの向かうより 染谷 卓

いには(一月号)

鮫色の布良の内海冬初め 村上喜代子

沖(一月号)

霜降や積みたる薪の芯赤し 能村 研三

音信(一月号)

枯野道曲りて枯野の中に入る 白鳥紅星子

響焰(二月号)

自由とはてくてくてくと冬青空 米田 規子

草の実(十二月号)

如何にせむ生老病死賜の声 逸見 真三

鴻(一月号)

藪柑子吾が晩年の色にかな 増成 栗人

好日(二月号)

欠伸するたび梟がこちら向く 高橋 健文

鳴(一月号)

敗荷に音の始まる乾きかな 加藤 峰子

軸(一月号)

黄落の指に崩れる塩にぎり 秋尾 敏

瀬祭(一月号)

年迎ふこよなく晴れし窓を開け 本田 攝子

野火(一月号)

筑波嶺の雨に朝から蓮根掘る 菅野 孝夫

初蝶(二月号)

水鳥や寄るでなく離るるでなく 中山 和子

万象(一月号)

能登しぐれ地のつやつやと純子句碑 江見 悦子

ペガサス(十八号)

秋桜コスモスどの神に祈るべき 羽村美和子

百鳥(一月号)

初鳴に手を振り子等の走り寄る 大串 章

ろんど(一月号)

鮫鱈のバズルの如き具材かな すぎき巴里

★年会費納入のお願い

年会費(三千円)は前納です。協会の円滑な運営のため、まだ納入されていない方はお早めの納入をお願い致します。年会費送付先 千葉県俳句作家協会 郵便振替口座 〇〇一五〇一六一三五二三四四

★広告募集のお知らせ

「真木」に掲載の広告を募集します。お申込みお問合せは左記へお願い致します。〒二七六-〇〇四二 八千代市ゆりのき台三二四エルブレイシア1101 千葉県俳句作家協会・広報部前北かおる 電話 〇九〇-四三六三-三三三〇一

事務局日誌

◆第四回理事会(出席者28名)

- 日時 令和5年12月16日(土)
会場 ホテルプラザ菜の花 四階 楨2
議事 1 令和5年度第65回千葉県俳句大会報告等について
2 令和5年度流山市内秋季吟行会報告について
3 令和5年度新春交流会について
4 第9回千葉県俳句大賞について
5 「第38回協会賞」について
6 令和6年度新緑交流会について
7 『みんなで能舞台に触れるWEEK』の俳句短冊の展示について
8 千葉県民文化祭の短冊展示について
9 会報「真木」二〇八号について
10 その他 事務局報告

会員異動

- 新会員
宮内 秀子(香取市) 岡井マズミ(大網白里市)
岡澤 田鶴(稲敷市) 橋内 訓子(板橋区)
久保木 徳(香取市) 宇山 美代(君津市)
謹 訃
須藤 嘉紀 様
謹んでご冥福をお祈り申しあげます。

編集後記

新年度の年会費につきましては、四月一日に納入状況のお知らせと払込み票を郵送致します。(前北かおる)

歩いて俳句

創刊 鳥居三朗  
師系 今井杏太郎

主宰 飯田 晴

雲発行所

〒276-0023 八千代市勝田台一七七一  
D一〇〇五

電話 & FAX 〇四七・四八七・七二二七

心を満たす俳句

「鴻」俳句会



主宰 増成栗人  
師系 角川源義 吉田鴻司

発行所 〒271-0087 松戸市三矢小台二四一六谷口方  
電話 〇四七・三六三・四五〇八  
FAX 〇四七・三六六・五一〇〇

◆誌代/年間 二一,〇〇〇円

月刊俳誌 鷗 (しぎ)

鳴俳句会

代表 加藤 峰子  
創刊 田中 午次郎  
再刊 伊藤 白潮

誌代 1年 12,000円  
(見本誌 500円)

〒260-0852 千葉市中央区青葉町 1274-14 加藤方

電話・FAX 043-225-7115  
http://shigi-haikukai.com/

自然と人間の一体化を目指す  
月刊 好日

創刊 阿部 哲人  
主宰 高橋 健文

誌代 一年 一三,〇〇〇円(送料共)

〒270-0007 千葉県松戸市中金杉二ノ七八

電話 〇四七・七一三・六四九五  
振替 〇〇二五〇一・一四一二七八

好日俳句会

月刊俳誌 沖 (おき)

俳句ルネッサンス

主宰 能村 研三

新会員募集中

誌代 1年/15,600円  
半年/7,800円  
見本誌 1冊 800円

沖発行所  
〒272-0021 市川市八幡6-16-19  
TEL 047-334-4975  
FAX 047-333-3051  
振替 00170-6-161552

創刊50周年

軸

軸俳句会

主宰 秋尾 敏

〒278-0005 野田市宮崎95-4  
電話 04-7122-3921  
Fax 050-5552-9110

84円切手3枚で見本誌贈呈

俳誌 あびこ

誌代(隔月刊) 一年 四〇〇〇円

〒270-1138 我孫子市下ヶ戸二八五

TEL 〇四一・七二八・二四四四一

郵振替 〇〇一〇〇一四一八九〇七四

あびこ俳句同好会

主宰 染谷 卓

一度きりの今を楽しむ

いには

INWA

主宰 村上喜代子

新会員歓迎・添削指導します。

誌代 1年 12,000円(月刊)  
半年 6,000円 見本誌 500円

— いには俳句会 —

〒276-0036 千葉県八千代市高津390-211  
電話 047-458-1919  
Fax 047-458-1895  
振替 00280-9-131469  
HP検索: いには俳句会

現代俳句同人誌 隔月刊 遊牧

名譽代表 塩野谷 仁  
代表 清水 怜

誌代 一年 六,〇〇〇円(送料共)

〒290-0003 市原市辰巳台東五三十一六 大西方

電話 〇四三六・七四一・五三四四  
振替 〇〇二八〇一・一〇〇〇二七

遊牧俳句会